



「わかる」「できる」「楽しい」授業をめざして

今回は、12月号に引き続き、『「わかる」「できる」「楽しい」授業をめざして』と題して、低学年（1～3年）とたんぼぼ学級の授業において、それぞれの工夫を紹介します。



1年生には、あと2ヶ月足らずで2年生になるという自覚を持たせ、「下の子の見本になろう。」と励ましています。学級全体の課題として、最後までしっかり「聞く」ことに重点をおいて、どんな場面でも実行できるようになってほしいと考えています。そこで、教師や友達が前で話をするときは、“よい姿勢で、顔を見て、物をさわったりしないで”集中して聞けるように気をつけています。聞く力は、話す活動・考える活動につながる大切な力だからです。

文字や言葉を覚えたり計算をしたりという個々の活動は、できるだけ声に出して、耳からも目からも頭に入るようにしています。また、ペアで算数遊びの活動をしたり、得意なことを教え合ったり、班で話し合いをしたり1つのテーマに取り組む活動を取り入れて楽しく学習しています。

子ども同士がさらに仲良くなり、助け合って学習できるように、温かい授業の雰囲気の下地をつくり、次年度へつなぎたいと思います。

1年 引田 真弓

たんぼぼ学級では、その子の**気持ち**や**ペースに合わせる**ことを特に大切にして授業しています。季節を感じながら、身の回りの生活のなかで「こんなことできたよ！」と、自分が嬉しくなるような学びを高田賀世子先生といっしょに目指しています。

例：お買い物学習では、お店「とけや」まで行きました。お金の計算や支払い体験のあと、友だちにクレープを作り、喜んでもらいました。



例：絵カード選びでは、自分のやってみたいことを選んで、「決めてからやる」という学びのルール作りにも取り組んでいます。

たんぼぼ学級 田中 良美

子どもたちが、「わかる」「できる」「楽しい」と意欲を持って学習に取り組めるよう、45分の授業の中には、「リズムとテンポ」を持って、授業づくりをしています。その中でも下記のことを授業の始めに取り入れれたりして、楽しくスタートできるように、心がけています。

- 【国語】●本読みもいろいろな読み方をして、長く続けられるようにしています。
- ① 一斉読み（みんなで読む）
 - ② 交代読み（「。」のところで交代して読む）
 - ③ ダウト読み（間違えずに読む）
 - ④ たけのこ読み（詩など短い文章のとき、好きな一文を選び、立って読む）

- 漢字を正しく、丁寧に書くために「かん字の5ヶ条」を言ってから始めています。

- ・しっかり 声出し 空書きだ
- ・何度も 書いて覚える 指書きで
- ・1ミリもはみ出さない なぞり書き
- ・そっくり そのまま うつし書き
- ・さいごの かくにん 指書きで



- 【算数】●たし算やひき算の筆算では、アルゴリズム（計算する順序）を声に出して言います。例えば・・・

- ① 25+29 は、一のくらい、5+9は 14。
- ② 1繰り上がって 十のくらい、2+2+1 は 5。
- ③ 百のくらい、1+0 は 1。
- ④ 答え、154です。

- 九九もフラッシュカードを使ったり、音楽を使って言ったり、九九ビンゴをしたりして、何度も唱え、覚えるようにしています。

学習したことを習得するために、何度も繰り返し行い、楽しく続けられるように工夫をし、基礎基本の定着を図っていきたいと思います。

2年 国中 智佳子

○自分の考えを持つ

どんな教科でも、正解を導き出すことだけではなく、一人一人が自分の考えを持つようにしています。文字で書けない場合は、絵や図を使って、ノートに自分の考えを書きます。

○考えを伝える

まずは、みんなの前で発表することに慣れるため、詩の暗唱やスピーチタイムの活動を取り入れました。ただ発表するのではなく、子どもが「みんなに聞いてもらうんだ。」という意識を持つようにしています。

○友だちの考えと比べる

「～と同じで」、「～と違って」、「～につけたしで」という風に、友だちの考えを聞いて自分の考えとつなげる姿を目指しています。そのために、まずは、友だちの考えをしっかりと聞くことが必要です。友だちの意見を聞いて同じように繰り返したり、いいなと思ったところを見つけることを、様々な場面で行っていきます。繰り返し取り組むうちに、友だちの考えに「なるほど！」と納得したり、「ここは違うと思う。」と指摘したりと、互いに学び合う姿も少しずつ見られるようになってきました。子どもたちが、安心して自分の考えを伝えられる雰囲気を大切にしていきたいと思います。

3年 佐々木 美幸